

音源の比較試聴(23)

—イムジチのヴィヴァルディ四季—

1. 始めに

前報(22)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらに、今回からレコードアンチスタティックと Magic Mat II などの対策を追加しています。それらの対策の効果をも、音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、下記の音源のイムジチのヴィヴァルディ四季を聴いていきます。

同じイムジチのヴィヴァルディ四季で、アナログと CD、収録年代、アナログ盤のカッティングの違いなどを比較していきます。

アナログ盤

PHILIPS FG-5001 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季

イムジチ合奏団

PHILIPS 28PC-70 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季

イムジチ合奏団

PHILIPS PL-1001 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季「春」第1楽章「冬」第2楽章

イムジチ合奏団

PHILIPS 3599-130

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季

イムジチ合奏団

CD

PHILIPS PHCP-3430

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季

イムジチ合奏団

3. 音源の比較試聴の試聴結果

アナログの PHILIPS GF-5001 (日本フォノグラム) 盤は、国内盤とばかり思ってい

ましたが、ラベルに **Made in Holland** との記載があります。LINN LP-12 の再構成(40)におけるヴィヴァルディの四季の PHILIPS 412 633 -1 (FG-5001) (オランダ盤) の経験から、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、くっきりと明晰ですっきりしていて華やかな音です。

アナログの PHILIPS 28PC-70 (日本フォノグラム) 盤は、1982 年の DIGITAL 録音で国内盤ですので、RIAA、N、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、DIGITAL 録音らしく、すっきりと切れ味の良い音です。

アナログの PHILIPS PL-1001 (日本フォノグラム) 盤は、イムジチのヴィヴァルディ全集のサンプル盤です。最初にイムジチのヴィヴァルディ全集と同様に、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いてみたところ、音の焦点があっておらず、強調感がありますので、国内盤の RIAA、N、第 4 時定数 Mid にしましたところ、こちらの方がしっくりきます。しかしながら、次の全集の中の 1 枚と音は随分違い、明晰さがなく、鈍っています。EQ 特性も、音質も違いますので、本当のサンプル盤とは言えないでしょう。

アナログの PHILIPS 3599-130 盤は、イムジチのヴィヴァルディ全集の中の 1 枚で、今まで気づかなかったのですが、ラベルに **Made in Holland** との記載があります。LINN LP-12 の再構成(40)におけるヴィヴァルディの四季の PHILIPS 412 633 -1 (FG-5001) (オランダ盤) の経験から、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、くっきりと明晰で華やかな音です。

CD の PHILIPS PHCP-3430 は、1995 年の収録で、時代は変わってもイムジチらしい明るく明晰なヴィヴァルディです。TruPhase の位相反転では、音が散漫になります。

4. まとめ

いずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらには AV ドーナッツやレコードアンチスタティック、**Magic Mat II** などの結果、すべて効果がそれなりに現れ、メディアや演奏の違いや収録年代の違いも把握でき、格落ちするような音源のフォーマットや再生経路はなくなったことが確認できました。今回の反省点は、ジャケットだけの記載事項だけでなく、盤のラベルもよくみて由来を判断しなければならないことです。

以上